

⑫ 公開特許公報 (A) 平3-222911

⑮ Int. Cl. 5

A 47 C 27/08
7/40

識別記号

庁内整理番号

G 7909-3B
7909-3B

⑯ 公開 平成3年(1991)10月1日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全2頁)

⑤ 発明の名称 緩衝機能付き脊宛クッション

⑦ 特願 平2-19668

⑧ 出願 平2(1990)1月30日

⑨ 発明者 遠津政夫 静岡県静岡市小鹿621番地の1

⑩ 出願人 エスピーケミカル株式会社 静岡県静岡市聖一色95-5

明 春田 寿

1. 発明の名称 緩衝機能付き脊宛クッション

2. 特許請求の範囲

両側の空気室の間に少なくとも一つの空気室を設け、それらを区画する区画溶着部には各々少なくとも一箇所の緩衝路が形成されていて、両側の空気室が連絡されていることを特徴とする緩衝機能付き脊宛クッション。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は特に揺れ動きの激しい乗り物等の座席に使用するエアーキッションに関する。

(従来の技術)

従来自動車等の座席は座席そのものの形状が体の座りが良い様に形成されているものが多いが、これ等は全て固定された形状であって必ずしも揺れ動きに対しは満足されるものでは無い、座りが良いという事は腰が湾曲した状態になり易く、この様な状態での長時間の運転では腰を傷める欠陥があり、これ等に対する配慮に欠けている。最近エアー式クッシ

ョンで膨張調節出来るのを装備したものが試みられているが価格が高く高級車向けのみであって、全ての車に使用出来るものでない。

(問題点を解決する為の手段)

本発明は上記した点に鑑みてなされたものであって、極めて低価格であり且つ簡単な使用方法で全ての車に使用出来るものを提供するものである。

以下、本発明を図示の実施例に基づいて具体的に説明する。

図中符号 (1) は両側空気室 (2) は連絡空気室である。

両側空気室 (1) は連絡空気室 (2) を介して形成されている。(3) は区画溶着部であり区画溶着部 (3) には緩衝路 (4) が設けられている。これを使用するに当たり空気室に充填する空気量は充填可能な最大量より少なくて済くのである。両側空気室 (1) 及び連絡空気室 (2) が揺れ動きに依り夫々圧せられた時充填された空気は各室を移動するのであるが、移動の速さは緩衝路 (4) の通路巾に依り限定出来るのである。注入空気は予め封入してあっても良いが使用時以外はかさ張るから注入、排出可能の栓を設ける

事が望ましい、(5)は膨張抑制溶着線であって適宜に設ければ背中の安定を得られるのである。

(効果)

以上述べた様に本発明は、空気の移動を緩衝式としたら固定式と異なり揺れ動きに対し適度の形状変化を得、無理のない体の安定を確保出来るから凡ゆる乗り物の座席に使用可能であり、任意設置式であるから折り畳めば枕として利用出来るし、就寝時の腰完てにも使用出来るからその効果は計り知れないものである。

4. 図面の簡単な説明

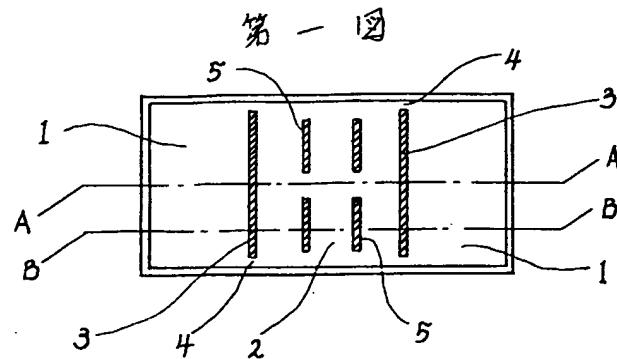
第一図は、本発明の一実施例を示す平面図。

第二図は第一図のA-A線に沿う空気封入時の断面図。

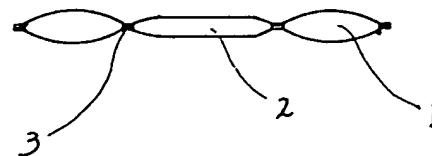
第三図は第一図のB-B線に沿う空気封入時の断面図である。

1 …両側空気室	4 …緩衝路
2 …連結空気室	5 …膨張抑制溶着線
3 …区画溶着部	

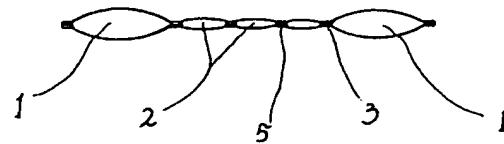
特許出願人 渡辺 勇



第一図



第二図



第三図